

支部だより

2020/12/12 No.27 東京支部事務局

新型コロナウイルス感染と支部活動

今年1月に開催の定期総会後、新型コロナウイルス感染の影響を受け、予定していた例会を中止せざるを得ない状況に陥りました。新型コロナウイルスによる感染者が出た当初から比べ最近では、新型コロナウイルスについての知識も増え、対応の仕方も解って来ているため「With コロナ」のもと3密を避けた会の運営も定着化し、各支部とも例会への参加者も元に戻って来ているのではと思います。



東京支部でも感染拡大の状況を考慮し、3月、5月、7月の例会を中止をしました。一早く、年間活動を中止とした支部もあり、また、役員と講師の先生で講評を行い、その講評の状況をYou・Tube、CDにし配信している会もあった様です。また、Zoomによる例会を始めたところも出て来ました。

例会を中止している間、このままの状態が良いのか？何か良い代案はないか？頭の痛い毎日でした。

Zoomによる例会が良いのではと思い検討を始めました。しかし、メンバーの中には、パソコン操作に不慣れな方も多く、また、当時は通信のための付属品の購入が困難であったため、知恵を絞ったあげく、以前私が仕事でやっていた経営マネジメント関連の通信教育を思い出し、作品添削は出来ないか？と思いつきました。例会

の講師をお願いしている山口先生にお話をしてみたところ「やりましょう」と了解をいただき、すぐに役員に提案、会員メンバーに一斉メールで参加の意志を確認し、スタートさせました。

作品添削に参加しないと言うメンバーもかなりいましたが、実施の結果、メンバーからの作品添削に対する反応は上々、リアルな例会も必要だが、年1回位は、活動プログラムの中に作品添削を入れてはとの要望が続出しました。添削をしていただいた先生にも負担をおかけしましたが、結果的には、やって良かった。今後も、環境変化に対応した新たな着眼点による講評会の進め方にチャレンジして行く必要性を強く感じた次第です。

そして、新型コロナウイルスが少し落ち着いたため、8月に例会を再開、さらに感染防止対応を強化し、先週、今年度最後の例会を終えました。ワクチンが開発され12月から接種を行う国も出てきていますが、ワクチン万能？ということではありません。来年以降もウイルス感染防止策を取った上の会の運営が必要かと思えます。支部の運営は、新型コロナウイルスだからということでは、何もやらないのではなく、ウイルス感染防止策を盛り込み、新たなプログラム(ex.改良作品講評、個別撮影会、テーマ別作品展等)を考え出し、活性化させて行く必要があります。来年こそ新型コロナウイルスが徐々に鎮静化し支部活動が正常に戻ることを祈りたいと思えます。

(文責：戸張 眞)

プロジェクター活用による講評会スタート

東京支部の例会は、過去4つ切りプリント作品を中心に講評会を行って来ました。

理由は、作品づくりはプリントすることで最終作品となる、フィルムで撮影をしているメンバーも多い、また、プロジェクターの性能が使用に耐えられるか？の疑問もある(最近では、プロジェクターの性能も良くなり、色に関する調整も可能になっている)ということ、プリントのための出費も掛かり、小さくて見難い4つ切

りプリントによる講評会を続けて来ました。



しかし、会員数も徐々に増え、例会会場も手狭になって来たため、会場の再検討を行い、今年度から例会の会場としてケンコー・トキナー様の会議室をお借りすることになりました。そのお陰で高性能なプロジェクターの使用が可能となり、懸案であった「プロジェクター活用による講評会」の導入を検討して来ました。



導入に当たっては、まずプロジェクターを活用した場合、投影された作品が講評に耐えられるか？の確認、その後、役員による2回のテスト、講評会運営のための方法、機材準備、メンバーへの説明マニュアル作成と説明等を進め、そして、本番実施に先立ち、リハーサルも行い8月の講評会から本格導入をしました。プロジェクター活用による講評は、今までの四つ切りプリントによる講評とは違い、各自の事前準備、当日の運営等慣れるまで大変でした。しかし、3回のプロジェクターによる講評を行う中で、プロジェクターの調整も適切に行える様になり、また、当日の運営（2チーム交代制での運営）も慣れ、さらに先生の講評の視点にも変化が出て来ており、一步深みのある講評会になりつつあると思います。今後は、さらに講評会の進め方改善に取り組み良い講評会にして行きたいと思っています。

（文責：戸張眞、太田桃子）

第18回東京支部作品展終了

11月20日から26日にかけて、JNP 東京支部第18回作品展を、富士フォトギャラリーSPACE 1+3にて開催しました。新型コロナが猛威を振っている中にもかかわらず、多数の写真愛好家の皆様、JNP 本部及び各支部の方々、プロ写真家の方々にご来場をいただきました。来場者数は実カウント478人(68人/日)、自動カウント1310人(187人/日)で、社会環境を考慮すれば上出来だったと思います。



主な来場者は、JNPからは、指導会員の山本一先生、川隅功先生、常任理事の曾我定昭さん、理事の前山和敏さん、プロ写真家の鈴木一雄先生、林惣一先生、清水哲郎先生、秦達夫先生、岡本洋子先生、喜多規子先生など、第4回前田真三賞



受賞飯島勝さん、またコンテストなどで活躍されている田原芳明さん、中井憲吾さん、原澤康隆さん、斎藤のり子さんなど、千葉支部の朝比奈さん、小川さん、埼玉支部の沼野さん、神奈川支部の宮崎さん、安藤さんなど多数の方々がお来られ、講評、感想などを頂きました。



皆様のおかげで、良い作品展になりました。
有難うございました。

(文責：井上武夫)

新たな仲間紹介

今年(令和2年)の2月で、長年続けていた仕事に一区切り付けて、新たな生活を始めました。時間的に余裕が出来たことから、趣味の写真をもっと充実させたく思い、日本風景写真協会への入会を希望しました。その後、戸張支部長から、支部にも無事入会との連絡を頂き、安堵した事をお覚えています。

写真撮影は、長く続いている趣味ですが、自分の写真を人に見せる事は殆どありませんでした。11月開催の作品展への出典のための、8月の講評会に初めて参加させて頂き、皆さんの写真を拝見し驚きました。風景の一瞬を見事に捉えている映像の数々でした。山口高志先生の写真撮影時の心構え、コメントなど、全てが新鮮なものでした。やはり、一人だけで撮影していると、問題点にも気付かず、雑な写真になってしまうと感じました。皆さんの写真を通して、改めて写真撮影の難しさ面白さを知る事ができました。

自分にとって、風景写真はいろいろな意味でとても楽しい事です。「どこへ撮りに行くか」、「どの様に撮影しようか」など、実際に写真を撮る前から心躍るものです。そこで出逢えた風景を自分の手でカメラの収める事ができれば、幸せなことです。今年はコロナウイルスの影響で、出掛ける事にも制約があり、自由にならない事が多く残念です。しかし、日常の中でも風景を見つけられる様に、カメラを持ち歩きたいと思います。

東京支部に参加し、多くの方々とお会いできた事が、私のこれからの人生に、大きな影響があると思います。皆さま方と写真を撮りたいと願っております。よろしくお願い致します。

(文責：佐藤直芳)

私のお気に入り撮影スポット

渡良瀬遊水地は、栃木・群馬・埼玉・茨城の4県にまたがる広大な湿地でラムサール条約にも登録をされています。その広さは3300haもあります。

治水や利水を目的としていますが、様々な自然がありレジャーも楽しめる場所です。

令和元年の台風19号の際には、この遊水地に大量の雨水を引き込み洪水調整機能を発揮しました。この渡良瀬遊水地、風景写真の撮影ポイントとしてはとても面白いところだと感じていて最近では頻繁に通っています。

春には渡良瀬遊水地の名物となっているヨシ焼きがあります。広大なヨシ原を焼いて虫の駆除、環境保全、良質なヨシの確保等を目的としています。毎年3月の中旬から下旬にかけて行われます。この日は多くのカメラマンが撮影に訪れます(私はまだ撮影したことはありませんが)。私が好きなのは、このヨシ焼きの直後の新芽が出てくる季節です。まだ地面にはヨシ焼き後の焦げた部分も多く残り、また焼け残ったヨシもある中で新しい命の緑が徐々に増えていきます。春霞が漂う日も多くありその景色はなかなか幻想的です。



この遊水地の一つの入り口である北エントランス入り口脇（渡良瀬カントリークラブの南側）の堤防の上からは、季節ごとに様々な情景を見られます。春や秋には霧が多く発生し、遠景に筑波山を望みながらヨシ原を撮影できます。条件がいいと霧が朝日に燃えて赤く染まりますし、漂う霧で幻想的な湿原を撮影することもできます。秋には雄大なススキに覆われる遊水地も見られます

もう一つの撮影ポイントとして有名な場所は、北エントランスから入って直進したところにある池内水路という小さな水路です。渡良瀬遊水地の写真ではよく見かけるもやい船を点景として撮影できる場所です。霧にかすむ水路、小船、漁の仕掛けが情緒たっぷりに見られます。冬には凍った水路や雪に覆われた景色も撮影できます。



以上の2箇所は第一調整池という場所になりますが、第二調整池、第三調整池とありそれぞれ遊水地の様々な表情を見せてくれます。各々の調整池は通行可能な道路でつながっていますが、車幅制限をするポールがたっている場所や砂利道を通る必要もありますので気を付けて運転してください。遊水地の中には大小さまざまな沼があります。車では気づきにくいところもあり

ますが、ヨシをかき分けて水際まで下りられるところがたくさんあります。朝日や夕日の条件によってはなかなかフォトジェニックな情景を発見できることがこの大きな魅力かなと思っています。

一面の菜の花や桜、彼岸花も見られ、多くの野鳥のさえずりも聞こえます。また熱気球のメッカでもあります。とても広い湿地ですが、人それぞれのポイントを見つけられるところだと思います。都内からもそれほど時間をかけずに行かれる場所なので是非撮影に訪れてみてください。

（文と写真：須加尾 浩）

支部だより No. 26 編集を終えて

東京支部だより・今年度年4回の発行を予定していましたが、新型コロナの影響で、途中2回を「いろいろ連絡・情報」と言う一斉メールにせざるを得ず、「支部だより」としては、No. 26号、27号の2回の発行に終わってしまいました。

「支部だより」は、当時事務局長であった山口恭永さんの発案で、内部的な連絡・情報発信を目的にスタートしたものです。

そして、私が支部長となった後、事務局の泉屋さんをお願いし、掲載内容を充実させ、内部だけでなく外部にも、HP、FB等を活用し発信することにしました。

お陰様で、他支部の方々にも読んでいただき、作品展の時に、「東京支部だより」読んでいますよ、活動状況も良く解り、撮影研鑽を含め皆さん楽しそうに集まり、活動しているなと言う雰囲気伝わって来るとお褒めのお言葉をいただくこともありました。

魅力的な支部を目指すためには、その活動状況を内外に発信し、さらに、新たな活動にチャレンジして行くことにより、魅力づくりのスパイラルを回して行くことで一体感も沸き、魅力的な支部になって行くかと思えます。

今後共、「支部だより」にご期待ください。

（文責：戸張 眞）